



15:00-15:20 / 15:20-15:40

「HiBD法の開発状況と今後の見通し」

北九州市立大学国際環境工学部特任教授 藤元 薫 氏

HiBD法は、固体触媒を用いて油脂を接触分解し、灯油に相当する炭化水素油を得る技術で、従来のバイオディーゼルとは異なり、副原料を必要とせず、グリセリンなどの副成物も出さない新しいバイオ燃料の製造技術です。パームや菜種などの植物油脂はもちろん、廃食用油や動物系油脂、脂肪酸廃棄物など様々な原料に適応が可能です。

「タイとの HiBD 共同研究プロジェクトの進捗状況」

北九州市立大学国際環境工学部特任研究員 谷 春樹 氏

昨年度より、JST-JICA の共同開発プログラム SATREPS 事業の一つとして、タイのチュラロンコン大学との新バイオディーゼル合成法 (HiBD法) 国際共同研究を行っています。昨年度は、タイから研究者を受け入れ研修を行うとともに、ベンチプラントの建設とタイへの納入を行い、現在はベンチプラントの運転を進めており、その成果などを紹介します。

16:20-16:50

「HiBD燃料の製造技術の開発  
および車両への適用評価」

株式会社タクマ 技術開発部 課長代理 佐藤 和宏 氏

固体触媒を用いた接触分解反応により、オレフィン・パラフィンから成るバイオ燃料を廃食油から製造する技術の確立を目的として実証試験を実施しました。触媒反応器と分留器から構成される廃食油の処理量 5L/h のベンチ設備を設計・製作し、その設備の運転性能を確認した結果、軽油留分について、重量収率 60%、エネルギー回収率 67% (その他の成分を含めると 87%)、得られたバイオ燃料は軽油規格に適合する品質でした。また、この燃料を用いてスクールバスへの 100% 給油による試験運行を行った結果、バイオ燃料の給油量約 500L、総走行距離約 2,700km に達し、運転性も市販軽油と同等であるとの評価を得る事が出来ました。

17:30-19:00

1,000



FAX での申し込みはこちらから  
**(093)695-3018**

FAX



サロン当日は九州電力による計画停電実施期間に該当します。前日夕刻までに計画停電予定の連絡が入った時点で翌日のサロンの開催を中止とし、そのご連絡を致しますので、緊急連絡先電話番号欄には緊急時に連絡可能な番号をご記入下さい。

第11回ひびぎのサロン参加申し込み

貴社名			
参加者氏名			
所属・役職	交流会	<input type="checkbox"/> 参加する	<input type="checkbox"/> 参加しない
住所			
電話番号	FAX 番号		
緊急連絡先電話番号	E-mail		
メールマガジンによるサロン等の案内を	<input type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 希望しない	<input type="checkbox"/> 登録済

ご記入いただいた個人情報は、(公財)北九州産業学術推進機構が細心の注意をもって取り扱います。また、無断で第三者に提供することはありません。当財団が関与する産学連携に関するイベント等について DM や E-mail 等にてご案内する場合があります。

15:40-16:10

「HiBD法による廃食油、  
ジャトロファからのバイオディーゼル燃料製造実験」

株式会社リサイクルエナジー 研究員 田崎 真俊 氏

H22 年に FAIS から HiBD法のライセンスを受け、廃食用油やジャトロファ油等からのバイオディーゼル燃料製造の実用化を目指して、研究を進めています。当社はこれに先立ち、廃プラスチックの油化技術に関するライセンスも受け、大型実証実験装置による実験の結果、実用化の目処が立ち、装置販売の営業活動を実施しています。

HiBD の技術はこの延長線にあるもので、廃プラスチック油化装置開発で培った技術を生かして開発に取り組んでいます。今回の発表では、廃プラ油化装置の開発状況と、廃食油やジャトロファ (南洋アブラギリ) を原料とした、HiBD法の基礎実験の概要について報告します。

16:50-17:20

「バイオディーゼル燃料事業を通しての  
地球温暖化防止」

株式会社フチガミ 研究開発室 室長 榎橋 保 氏

各種廃棄物のリサイクル・再資源化の一環として廃食用油を原料とし、2008 年 4 月よりバイオディーゼル燃料 (BDF) を製造・販売開始しました。今の地球温暖化は、化石燃料の利用増大に伴い、大気中の温室効果ガス濃度増加も一因と考えられています。BDF は軽油の代替燃料として植物由来のディーゼル燃料で再生可能なエネルギーです。カーボンニュートラルともいい、CO2 はゼロカウントとされています。一般的に FAME 法の車両への不具合等云われている中、HiBD法はそれらをクリアできると共に、BDF の原料としては不向きな他の油脂等も取扱い可能である為、HiBD法の実用化を目標とし、NEDO との共同研究開発を行っています。



17:20-17:30

【車の場合】

北九州都市高速道路黒崎出入口  
(黒崎・折尾出口下車折尾方面へ)

学術研究都市  
北九州都市高速道路黒崎出入口から  
所要時間 20 分

【公共交通機関の場合】

鹿児島本線『折尾駅』下車

北九州市営バス  
折尾駅西口 学研都市ひびぎの  
所要時間約 15 分

